



# 東北大学 みらい創造債

## サステナビリティボンド・フレームワーク

2022 年 12 月

### I. はじめに

#### 1 東北大学の成り立ちと理念

東北大学は、1907 年、東京、京都に次ぐ我が国3校目の国立大学として仙台の地に創設されました。創設に当たっては、民間企業や宮城県からの多大な支援と期待を受けており、創設時より「社会とともにある大学」としてスタートしています。1922 年には法文学部が設置され、総合大学としての歩みを始めました。本学は建学以来、我が国有数の総合研究大学として、3 つの建学の理念のもと、多くの指導的人材を輩出するとともに、世界的に卓越した研究成果をもって人類の知の地平を拡大し、さらには未来社会へ向けた変革・イノベーションを先導してきました。

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の被災地の中心に所在する本学は、震災により改めて「社会とともにある大学」というアイデンティティを胸に刻み、教育、研究、社会連携等の諸活動の一層の推進を図りました。

2017 年には、名実ともに日本を代表する大学として、産学官金の連携を含め、世界トップクラスの研究・教育環境の構築により、世界の有力大学と伍していくことを使命とする「指定国立大学法人」の最初の三校に指定されました。

そして、本年 2022 年に創立 115 周年、総合大学として 100 周年の節目を迎え、一層「成長する公共財」として社会において様々な課題の解決に貢献するとともに、社会の変革を先導する存在として、自らも変化・挑戦し続けます。

#### ● 建学の理念

3 つの建学の理念は、大学における教育、研究、社会連携の諸活動を効果的に連動させる原動力です。この 3 つの理念を基盤として教育、研究、社会連携の好循環により社会課題の解決に取り組んでいます。

##### ➤ 「研究第一」

国際的に卓越した研究成果を生み出しながら、その研究を通して未来を拓く優れた人材を育成すること。

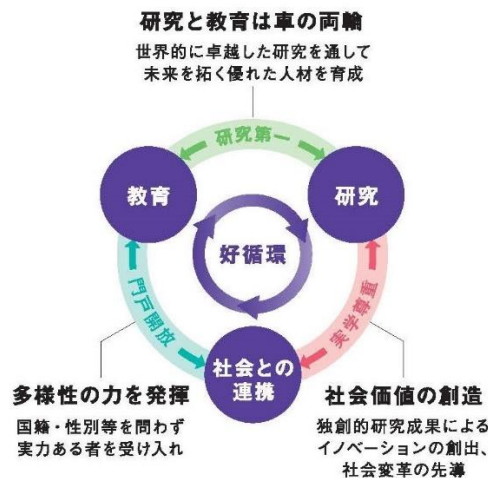
##### ➤ 「門戸開放」

国籍・性別を問わず実力ある者を受け入れ、多様性の力を発揮するとともに才能を伸ばし社会へ送り出すこと。

##### ➤ 「実学尊重」

独創的研究成果に基づく社会価値を創造すること。

## 建学の理念「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」を基盤に 教育・研究・社会連携の好循環を実現



## 2 東北大学の使命と基本的な目標

### ● 使命

東北大学は、世界最高水準の研究・教育を創造します。また、研究の成果を社会が直面する諸問題の解決に役立て、指導的人材を育成することによって、平和で公正な人類社会の実現に貢献します。

### ● 基本的な目標

東北大学は、数々の教育研究の成果を挙げてきた実績を踏まえ、開学以来の伝統、建学の理念等を積極的に踏襲し、独創的な研究を基盤として高等教育を推進する総合大学として、以下の目標を掲げます。

#### ① 教育目標・教育理念 —「指導的人材の養成」

- ・ 学部教育では、豊かな教養と人間性を持ち、人間・社会や自然の事象に対して「科学する心」を持って知的探究を行うような行動力のある人材及びグローバルな視野に立ち多様な分野で専門性を発揮して指導的・中核的役割を果たす人材を養成する。
- ・ 大学院教育では、世界水準の研究を理解し、これに創造的知見を加えて新たな展開を遂行できる創造力豊かな研究者及び高度な専門的知識を持つ高度専門職業人を養成する。

#### ② 使命 —「研究中心大学」

- ・ 「研究第一主義」に基づき、真理の探究等を目指す基礎科学を推進するとともに、研究中心大学として人類と社会の発展に貢献するため、研究科と研究所等が一体となって、人間・社会、自然に関する広範な分野の研究を行う。
- ・ 「実学尊重」の精神を活かした新たな知識・技術・価値の創造に努め、常に世界最高水準の研究成果を創出し、広く国内外に発信する。
- ・ 知の創造・継承及び普及の拠点として、人間への深い理解と社会への広い視野・倫理観を持ち、高度な専門性を兼ね備えた行動力ある指導的人材を養成する。

#### ③ 基本方針 —「世界と地域に開かれた世界リーディング・ユニバーシティ」

- ・ 人類社会の様々な課題に挑戦し、人類社会の発展に貢献する「世界リーディング・ユニバーシティ」(世界三

十傑大学)であることを目指す。

- ・ 世界と地域に開かれた大学として、自由と人権を尊重し、社会と文化の繁栄に貢献するため、「門戸開放」の理念に基づいて、国内外から、国籍、人種、性別、宗教等を問わず、豊かな資質を持つ学生と教育研究上の優れた能力や実績を持つ教員を迎え入れる。それとともに、産業界はもとより、広く社会と地域との連携研究、研究成果の社会への還元や有益な提言等の社会貢献を積極的に行う。
- ・ 市民の知的関心を受け止め、支え、育んでいける教育研究活動を積極的に推進するとともに、市民が学術文化に触れつつ憩える環境に配慮したキャンパスづくりを行う。

目標の実現を通じ新たな大学像を確立し、東日本大震災の被災地の中心に所在する総合大学の使命として、震災復興の取り組みを基盤に持続可能なグリーン未来社会の実現に貢献します。

### 3 東北大学ビジョン 2030 について

東北大学は 2018 年に今後取り組む挑戦について、「東北大学ビジョン 2030」として取りまとめました。本ビジョンは、社会・経済・科学技術が地球規模で連動する世界の将来像を見据え、他大学にはない本学独自の強みと可能性を見極めたうえで、2030 年に向けた本学のあるべき姿・ありたい姿(ビジョン)と、その実現を目指した中長期の方針(重点戦略)、さらには、具体的なアクション(主要施策)等を提示するものです。

#### ● 策定の背景

世界は今、大きな変革期にあります。グローバル化の一層の進展や第 4 次産業革命の進行により、多くの人が、社会の仕組みが根本から変わると考えています。さらに、国際社会の多極化、食糧問題、社会的格差の拡大、地球環境問題など、多様で複雑化した課題が顕在化しています。同時に、そのような変革期であるからこそ、より豊かな未来社会をデザインし、その実現に向けた一步を踏み出す好機であるとも言えます。大学にとって、目の前の課題に対する解決策の探求にとどまらず、既成概念の枠を超えた新たな社会価値の創造へ向けた大胆な挑戦が強く求められています。以上のような現代社会における大学の役割の認識に立脚しつつ、本学がその本来の使命(ミッション)を果たすうえで、今後取り組んでいくべき挑戦について本ビジョンにて取りまとめました。

#### ● 4 つのビジョン

##### Vision 1 (教育)

学生の挑戦心に応え、創造力を伸ばす教育を展開することにより、大変革時代の社会を世界的視野で力強く先導するリーダーを育成します

##### Vision 2 (研究)

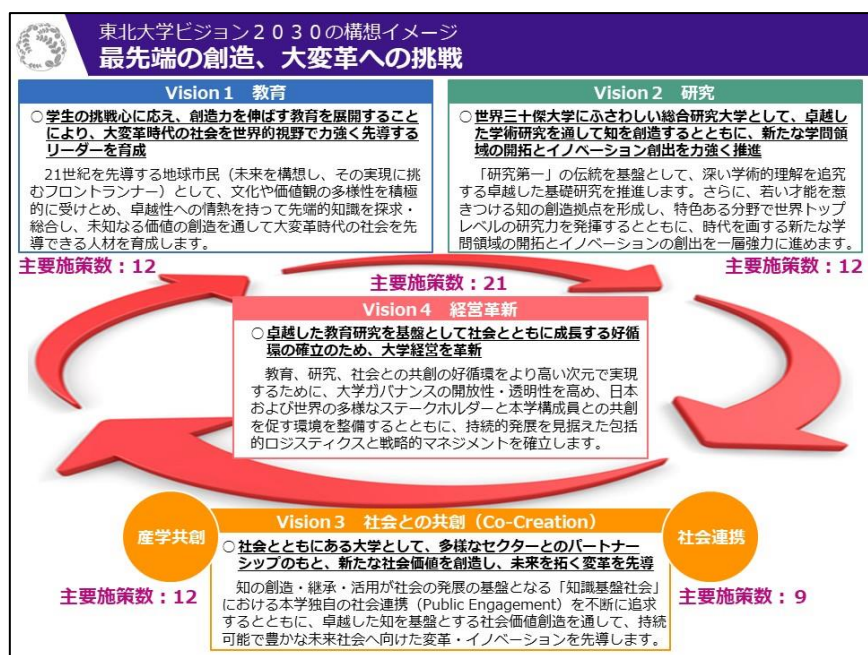
世界三十傑大学にふさわしい総合研究大学として、卓越した学術研究を通して知を創造するとともに、新たな学問領域の開拓とイノベーション創出を力強く推進します

##### Vision 3 (社会との共創)

社会とともにある大学として、多様なセクターとのパートナーシップのもと、新たな社会価値を創造し、未来を拓く変革を先導します

##### Vision 4 (経営革新)

卓越した教育研究を基盤として社会とともに成長する好循環の確立のため、大学経営を革新します



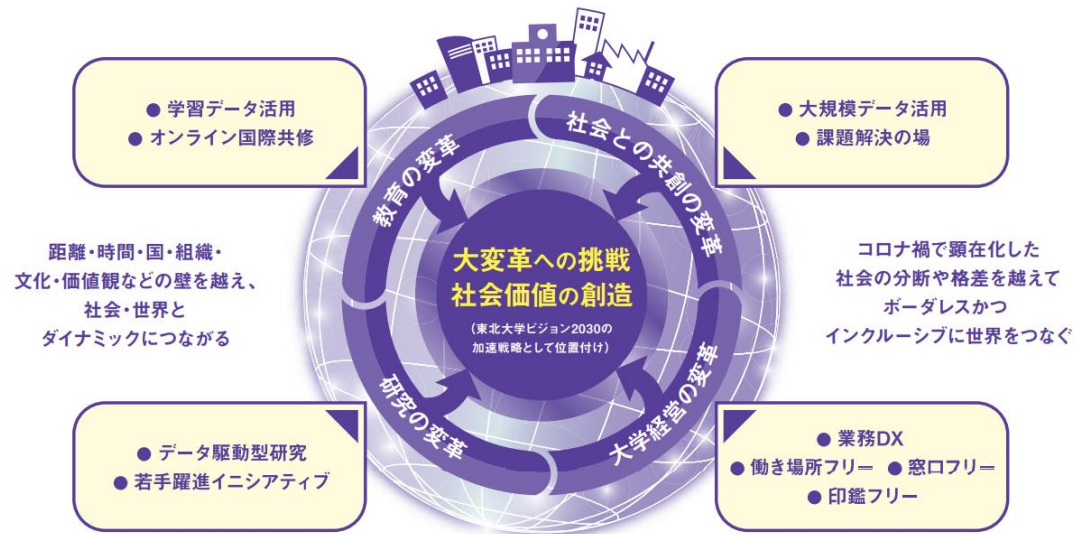
#### 4 東北大学コネクテッドユニバーシティ戦略

東北大学は2020年7月、「最先端の創造、大変革への挑戦」をうたった「東北大学ビジョン2030」をアップデートし、大学の変革を加速する「コネクテッドユニバーシティ戦略」を策定しました。

「東北大学ビジョン2030」においては「社会との共創」を重要な柱として掲げました。コロナ危機に続くニューノーマルの時代を見据え、アップデートした「東北大学コネクテッドユニバーシティ戦略」では、DXを通して、これをさらに加速することとしました。サイバー空間を活用し、距離や組織、文化や価値観などの壁を超えて世界とよりダイナミックにつながることによって、自由度の高い学びと知の共創を実現します。

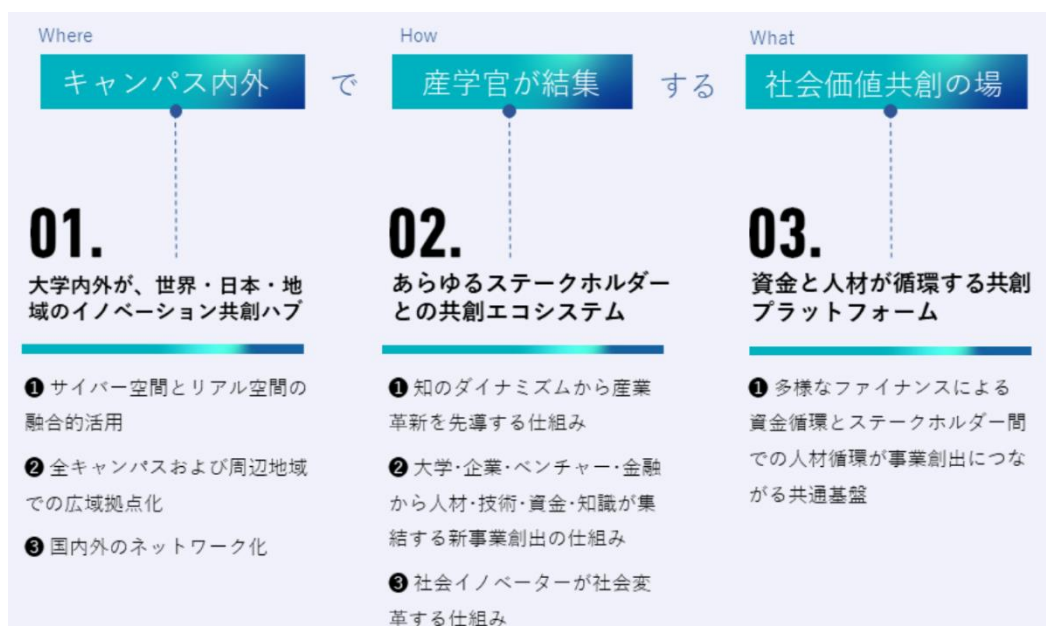
このように多様な役割を担うこれからの研究大学には、従来の枠組みを超えて公共財としての機能を拡張していくこと、すなわち「成長する公共財」として社会への波及力を高めていくことが求められます。東北大学は、教育研究をはじめとする大学の諸活動を拡張して社会と世界に貢献し、その成果の価値化を通して経営資源の充実を図ります。さらにこのようにして得られた自由度の高い経営資源を活用して世界から才能を集め、基礎分野も含めた研究の一層の卓越性を追求します。このような価値の循環を基盤とする経営によって大学を大きく飛躍させていきます。

## 東北大学コネクテッドユニバーシティ戦略



### 5 東北大学サイエンスパークについて

東北大学は、「東北大学ビジョン 2030」の重点戦略の一つとして、青葉山新キャンパスを中心に、「共創」を基本コンセプトとしたキャンパス内外で産学官が結集する社会価値共創の場、「サイエンスパーク」の整備を目指しています。サイエンスパークとは、研究開発から事業経営や制度設計まで一貫して遂行していくオープンイノベーションのためのエコシステムです。今後、青葉山新キャンパスのサイエンスパークゾーン内に設けられるスペースにおいて、次世代放射光施設 NanoTerasu<sup>※1</sup>を活用する企業や本学を含めた産学官金の研究グループなどが入居し交流・連携していくことで、優れた研究成果の創出、産学官金連携の促進、交流人口増加といった好循環が生まれるプラットフォームを構築することにより、新たな社会価値創造が生み出され、オープンイノベーションのエコシステムの形成、新たな知見や破壊的イノベーションの創出が期待されます。産学官金共創のための他に見えない戦略性を備えたサイエンスパークは、「東北大学ビジョン 2030」の柱である「社会との共創」を強化し、社会課題の解決、社会価値の創造に貢献します。



## サイエンスパークのコンセプト



青葉山新キャンパスに整備中のサイエンスパーク ※一部 CG 加工

## 6 グリーン未来創造機構

東北大学はこれまでに推進してきた東日本大震災からの復興及び日本の新生に寄与するプロジェクトや、本学が掲げる SDGsである「社会にインパクトある研究」の 30 プロジェクト等をさらに発展させ、新たに「Green Technology」、「Recovery & Resilience」、「Social Innovation & Inclusion」の 3 つの柱のもと大学の総合力を以て全学組織的に社会課題の解決へ挑み、グリーン未来社会の実現に貢献することを目的として、グリーン未来創造機構を 2021 年 4 月に設置しました。

自然災害や感染症などの予測困難な  
リスクに対してレジリエントでかつ  
持続可能な未来社会の実現に貢献



- グリーン未来創造に向けた総合知のショーケース
- 社会課題解決と大学の諸活動を橋渡しするインターフェイス
- 政策立案・事業企画などに寄与するシンクタンク



## ○東北大学グリーンゴールズ宣言(Green Goals Initiative)

東北大学は、地球環境と人類の持続可能な未来のために、「グリーン社会の実現」に貢献する人材の育成、研究開発、社会共創を進めるとともに、大学キャンパスのゼロカーボン化を進めています。

現在、ネイチャーポジティブプロジェクト、燃料アンモニアプロジェクト、ゼロカーボンキャンパスプロジェクト等、上記に係る様々なプロジェクトを進めており、その中で特にゼロカーボンキャンパスプロジェクトでは、2030 年度温室効果ガス排出量を 50%削減(2013 年度比)するとともに、国の方針である 2050 年度よりも 10 年前倒しをして、2040 年度のカーボンニュートラル実現を目指しています。

本目標を達成するため、2022 年からは温室効果ガス排出量をこれまでの「毎年 2%削減」から「毎年 4%削減」へと年度ごとの削減目標を大幅に上積みするとともに、建物の建設においてはグリーンビルディングを目指すなど、積極的に推進しています。



## 7 東北大学ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI)推進宣言について

東北大学は設立当初より、「門戸開放」を掲げ、多様な人材に入学の扉を開きました。その結果、1913 年には日本で初めての女子大学生が誕生しました。留学生にも早くから門戸を開いていたことも含め、本学では黎明期から多様性に富んだ環境や意識を育んできました。

創立 115 周年・総合大学 100 周年を迎えた節目となる 2022 年 4 月に、男女共同参画の更なる推進と、多様性、公正性、包摂性を理念として掲げる「東北大学ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI)推進宣言」を発出し、全ての構成員がダイバーシティを尊重し、かつ、全ての構成員のダイバーシティが尊重される大学を目指しています。



## II. サステナビリティボンド(東北大学 <sup>※2</sup> 未来創造債)について

東北大学は、「東北大学ビジョン 2030」及び「東北大学コネクテッドユニバーシティ戦略」を加速し、グリーン未来社会を実現するために必要な資金をサステナビリティボンドによって調達することを目的にサステナビリティボンド・フレームワーク(以下、本フレームワーク)を作成しました。本フレームワークは国際資本市場協会(International Capital Market Association)が公表するグリーンボンド原則(Green Bond Principles)2021、ソーシャルボンド原則(Social Bond Principles)2021、およびサステナビリティボンド・ガイドライン(Sustainability Bond Guidelines)2021に加え、環境省の定めるグリーンボンドガイドライン 2022 年版、金融庁の定めるソーシャルボンドガイドライン 2021 年版に適合しており、以下 4 つの要素で構成されています。

### 1 調達資金の使途

本フレームワークに基づき調達した資金は、「東北大学ビジョン 2030」及び「東北大学コネクテッドユニバーシティ戦略」の下で、グリーン未来社会の実現に貢献する「成長する公共財」として、地球的課題解決に向け新たな社会価値を創造することを目的とし、以下の適格クライテリアを満たすプロジェクトに充当します。

#### (1) ソーシャルプロジェクト

| SBP 事業区分          | 適格クライテリア                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・必要不可欠なサービスへのアクセス | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国立大学法人法施行令第八条第四号(国立大学又は大学共同利用機関における先端的な教育研究の用に供するために行う土地の取得等)に該当する事業</li> <li>・ 本学が「東北大学ビジョン 2030」及び「東北大学コネクテッドユニバーシティ戦略」に基づいて策定した事業</li> <li>・ グリーン未来社会の実現に貢献する事業</li> </ul> |

## (2) グリーンプロジェクト

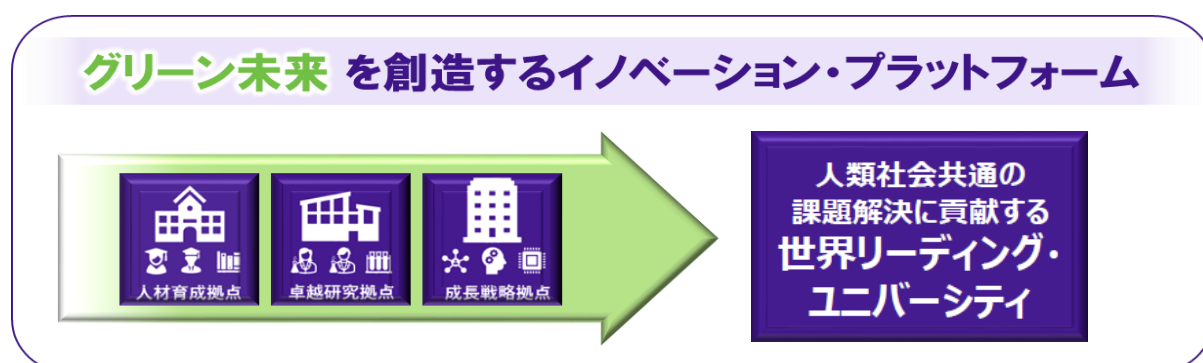
| GBP 事業区分                                                                        | 適格クライテリア                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーンビルディング</li> <li>・エネルギー効率</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国立大学法人法施行令第八条第四号(国立大学又は大学共同利用機関における先端的な教育研究の用に供するために行う土地の取得等)に該当する事業</li> <li>・ 本学が「東北大学ビジョン 2030」及び「東北大学コネクテッドユニバーシティ戦略」に基づいて策定した事業で、更に以下の環境認証のいずれかを取得済みもしくは取得予定の建物の建設・取得 <ul style="list-style-type: none"> <li>① ZEB 認証における ZEB、Nearly ZEB、ZEB ready、ZEB Oriented</li> <li>② CASBEE 評価認証における S ランク、A ランクまたは B+ランク</li> <li>③ BELS における 5 つ星、4 つ星または 3 つ星</li> </ul> </li> <li>・ グリーン未来社会の実現に貢献する事業</li> </ul> |

東北大学は本フレームワークに基づいて調達した資金は、3つの理念を具現化し、教育から研究、社会価値への展開までを繋ぐイノベーション・プラットフォームの構築を目的とした事業に充当します。真の世界クラス大学にふさわしい社会に開かれた共創をさらに進展させ、グリーンでサステナブルな社会の実現に向け、波及効果が高く、投資効果が期待できる事業に戦略的に投資します。対象となる人々は本学の構成員に加え、本学の取り組みによる社会価値の共創を享受する人々としします。

### ● 事業について

入学直後の全学教育から、次世代を先導する研究・起業の人材を育成し、これらの人材が卓越した研究者や起業家へと成長し、研究成果を社会実装して未来を拓く社会価値を創造するための以下の「人材育成拠点」、「卓越研究拠点」、「成長戦略拠点」を整備します。教育、研究、産学連携、スタートアップを繋ぎ、ZEB 認証等の環境認証を取得した最先端の教育研究拠点においてイノベーションのプラットフォームを構築し、グリーン未来社会の実現を目指します。

新たに整備する施設は、グリーンビルディングとして、ZEB 認証等の環境認証を取得し、「2040 年カーボンニュートラル」を実現します。



### ① 人材育成拠点

先端的かつ魅力的な教育環境を整備し、国内外の優秀な学生を惹きつけ、学生の多様な交流や、最先端

の教育プログラムによりグローバルリーダー等を育成。

<想定する事業内容例>

○共創教育環境

学生の多様な学習や交流、協働を支援する共創教育環境によって、産学共創や社会人向けリスキリングなどの多様な教育プログラムを展開。

○世界で活躍する人材の育成

DXを戦略的に活用した国際性、独創性豊かなグローバルリーダーやアントレプレナーを育成。



人材育成拠点のイメージ

## ② 卓越研究拠点

世界トップレベルの研究環境を整備し、国内外の卓越した研究者を結集することで、異分野融合等による新たな学問領域の開拓と卓越した研究成果の創出を実現。

<想定する事業内容例>

○世界最高水準の研究環境

研究者が安心して研究に専念できる、ハード・ソフト一体の充実した研究インフラを構築。

○研究の共創

世界トップレベルの研究者の結集によって、異分野融合等による新たな学問領域の開拓や卓越した研究成果・人材を創出。



卓越研究拠点のイメージ

## ③ 成長戦略拠点

NanoTerasu(次世代放射光施設)との連携を核として、サイエンスパーク事業を中心とした産学共創の推進拠点を整備し、社会共創の加速とオープンイノベーションのエコシステムを実現。

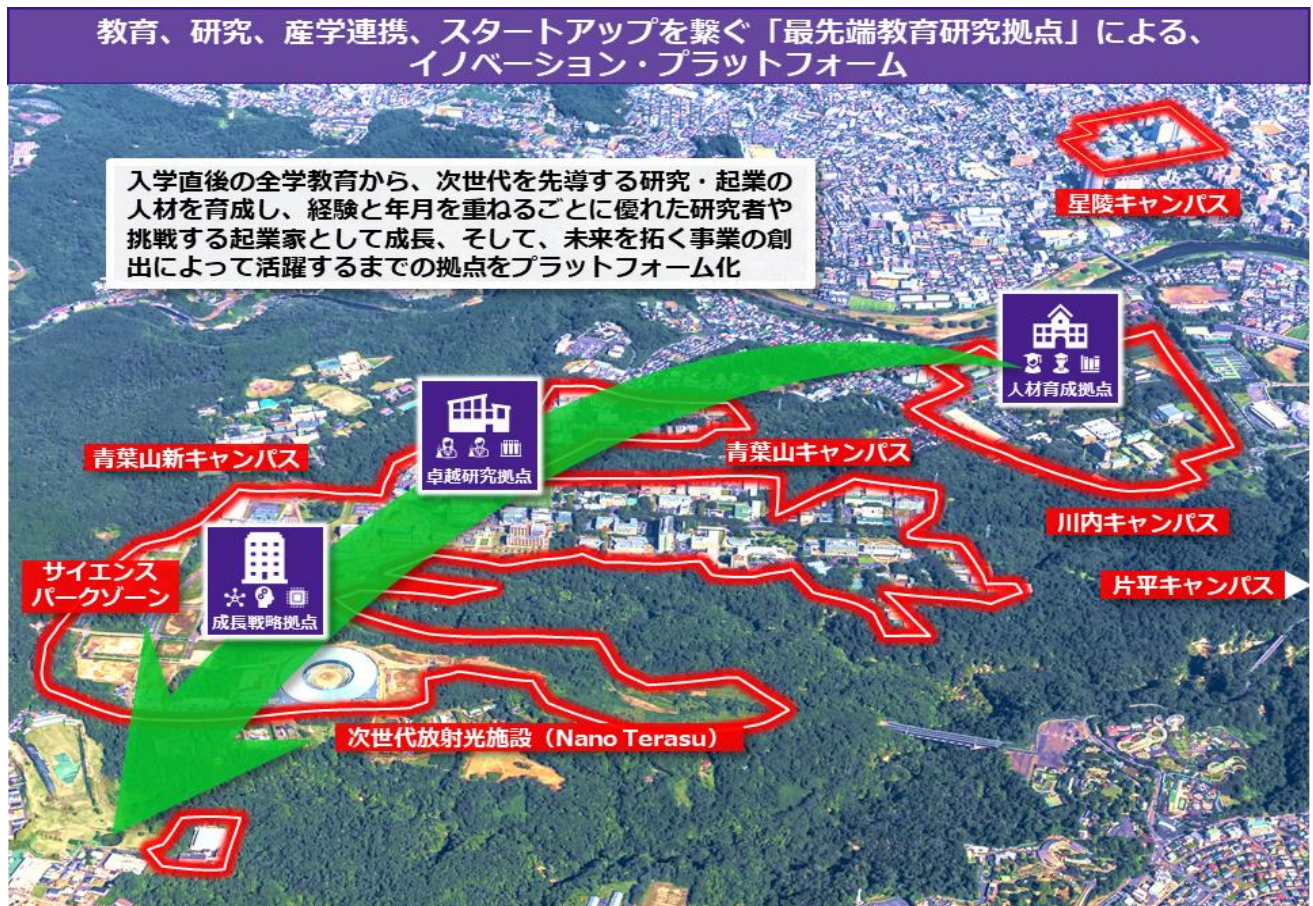
<想定する事業内容例>

○産学連携による戦略的な事業成長

企業 140 社が自己資金を投じてアクセスを表明している NanoTerasu(次世代放射光施設:2024 年度運用開始)との連携を核として、サイエンスパーク事業や既存の産学共創施設の最先端化を中心とした産学共創を推進し、卓越研究の成果を社会価値への展開によって社会課題の解決を図り、社会共創の加速とオープンイノベーションのエコシステムを実現。



成長戦略拠点のイメージ



● 持続可能な開発目標 (SDGs) との整合性

| SDGs 目標                                                            | ターゲット                                                                                                                                                                                |
|--------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>4 質の高い教育をみんなに</p> <p>すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p> | <p>4.3</p> <p>2030 年までに、全ての人が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。</p> <p>4.4</p> <p>2030 年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。</p> |

|                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  <p>7 エネルギーをみんなに<br/>そしてクリーンに</p> <p>すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する</p> | <p>7.3</p> <p>2030 年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。</p>                                                                                                                                                                                                                 |
|  <p>9 産業と技術革新の<br/>基盤をつくろう</p> <p>強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る</p>  | <p>9.4</p> <p>2030 年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。</p> <p>9.5</p> <p>2030 年までにイノベーションを促進させることや 100 万人当たりの研究開発従事者数を大幅に増加させ、また官民研究開発の支出を拡大させるなど、開発途上国をはじめとする全ての国々の産業セクターにおける科学研究を促進し、技術能力を向上させる。</p> |
|  <p>11 住み続けられる<br/>まちづくりを</p> <p>都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする</p>                 | <p>11.3</p> <p>2030 年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、全ての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。</p> <p>11.6</p> <p>2030 年までに、大気の水質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。</p>                                                                                 |

## 2 プロジェクトの評価と選定のプロセス

本フレームワークに基づき調達する資金を充当するプロジェクトは、東北大学ビジョン 2030 に示される構想や方針等に沿った内容であることについて、大学債発行に向けて新設した資金調達委員会においてサステナビリティボンドの適合性も含め審議、承認した後、経営協議会での審議を経て、役員会で議決を行います。対象プロジェクトの選定にあたっては、環境及び、社会への負の影響について考慮し、影響を緩和・管理します。

調達資金の使途は教育、研究施設の建設、改修等を主としており、深刻な環境・社会への負の影響は想定されません。

なお、建設・改修工事に際しては、学内外の有識者による専門委員会及び自治体との連携によって以下の点に留意して実施するものとし、事前の各種調査による周辺環境への配慮及び関係法令等の順守によって適切に対応します。

- 日本国の法令等（例：環境配慮契約法、グリーン購入法、リサイクル法、騒音規制法、振動規制法 等）

- プロジェクトを実施する自治体における環境関連条例等の順守（例：仙台市地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例、杜の都の環境をつくる条例等）
- 必要に応じた環境への影響調査の実施や周辺住民への十分な説明
- 労働者の適切な安全管理

### 3 調達資金の管理

サステナビリティボンドによる調達資金は財務会計システムにより入出金管理を行います。入出金は財務担当者がシステムに入力し、経理責任者が承認する体制とします。また、資金充当状況に係る帳簿は、財務会計システムにより記録した上で、償還まで保管する予定です。

東北大学においては、月次の財務状況を経理責任者から財務総括責任者に報告しています。また、入出金を含む財務状況全般について、毎年度、監査法人による会計監査を受けることとなっています。サステナビリティボンドによる調達資金の未充当金は、現金または現金同等物、短期金融資産等の安全性及び流動性の高い資産により管理・運用する予定です。調達資金充当対象施設が火災等災害により滅失した場合は、保険金により当該設備の復旧を予定しています。

### 4 レポーティング

東北大学は資金の充当状況に係るレポーティング及びインパクト・レポーティングを、ウェブサイトや統合報告書等にて年に一回、実務上可能な範囲で開示します。なお、調達資金の充当計画に大きな変更が生じる等の重要な事象が発生した場合は、適時に開示する予定です。

#### (1) 資金の充当状況に係るレポーティング

調達資金が全額充当されるまでの間、以下の項目について開示予定です。

- ① 充当したプロジェクトのリスト
- ② 充当金額
- ③ 未充当残高（償還までの間に資金充当対象設備を売却し再充当の必要がある場合を含む）
- ④ 充当予定時期
- ⑤ 未充当であるが、実施が確定しているプロジェクトのリスト

#### (2) インパクト・レポーティング

##### 【ソーシャルプロジェクト】

| 必要不可欠なサービスへのアクセス（SBP 事業区分）              |                                                                                       |                                                                                |
|-----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| アウトプット指標                                | アウトカム指標                                                                               | インパクト                                                                          |
| ・対象となるプロジェクトにおいて取得した土地、設置・整備した施設、設備の概要等 | ・ソーシャルプロジェクトに関係する研究者、学生数等<br>・ソーシャルプロジェクトに関係する論文数等<br>・ソーシャルプロジェクトに関係する、産学連携事例、共同研究数等 | ・未来を拓く優れた人材の育成<br>・多様性の力の発揮と、社会との共創の推進<br>・卓越した研究成果の創出と社会価値の創造<br>・グリーン未来社会の実現 |

## 【グリーンプロジェクト】

| グリーンビルディング・エネルギー効率 (GBP 事業区分) |  |
|-------------------------------|--|
| 開示指標例                         |  |
| ・施設、設備の概要                     |  |
| ・対象不動産の環境認証等の取得状況             |  |
| ・対象不動産の二酸化炭素排出量               |  |

上記指標を含むインパクト・レポーティングとして、債券が償還されるまで、その活動内容等を年に一回公表します。

### ※1 「NanoTerasu」

我が国初の官民地域パートナーシップの枠組みで本学青葉山新キャンパス内に整備される次世代放射光施設。太陽光の10億倍以上の明るさの光(放射光)を用いて、ナノスケール(10億分の1メートル)の小さな世界を観察することが可能。

### ※2 「東北大学 みらい創造債」

東北大学は、創設から115年、総合大学として100年、「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」の理念の下、社会とともにある大学として骨太の研究成果を社会価値の創造に繋げてきました。今回の大学債発行により、国立大学法人の経営を飛躍させ、教育研究活動の拡張と資金の好循環を一体のものとした、「成長する公共財」として、新たな未来を創造すべく、愛称を「東北大学 みらい創造債」としました。